

年末は、大晦日恒例のごとく「紅白歌合戦」を見てしまった。ここ数年は、この番組を通してその年に流行した楽曲を知るという始末である。知らないミュージシャンが出てくると、娘に「これは誰」と聞いたりする。妻に聞いても私以上にわからない。最近、スペシャルコーナーがある。今回は、ビートたけしさんもよかったが、何といても松任谷由実、ユーミンの「ノーサイド」である。ところが、もう1曲心に残ったものがあった。それが、竹内まりやさんの「いのちの歌」である。

竹内まりやさんというと、「不思議なピーチパイ」が出てきてしまうのは、私の年代だろうか。山下達郎さんと結婚してから、音楽活動の第一線からは退いてしまった感があったが、実は名曲を世に送り出していた。去年は、木村拓哉さん主演のドラマ「グランメゾン東京」の主題歌に山下達郎さんの曲が使われていたのもよかった。

以前勤めていた職場に、私よりも一回り以上年が離れた男性教員がいた。その彼が竹内まりやさんのファンだった。意外だった。彼の年代では、「不思議なピーチパイ」をリアルタイムでは知らないはずである。年下の若手である彼から竹内まりやさんの話を聞いて以来、ずっと気にはなっていた。今回の紅白歌合戦では竹内まりやさんが出るからといって特別楽しみにしていたわけではなかった。しかし、引き込まれるように「いのちの歌」の歌詞をじっくりと聞くことになった。

生きてゆくことの意味 問いかけるそのたびに
胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ
この星の片隅で めぐり会えた奇跡は
どんな宝石よりも たいせつな宝物
泣きたい日もある 絶望に嘆く日も
そんなときそばにいて 寄り添うあなたの影
二人で歌えば 懐かしくよみがえる
ふるさとの夕焼けの 優しいあのぬくもり

本当にだいじなものは 隠れて見えない
ささやかすぎる日々の中に かけがえのない喜びがある

いつかは誰でも この星にさよならを
する時が来るけれど 命は継がれてゆく
生まれてきたこと 育ててもらえたこと
出会ったこと 笑ったこと
そのすべてにありがとう
この命にありがとう

この詩の中でも特に「本当にだいじなものは 隠れて見えない」「ささやかすぎる日々の中に かけがえのない喜びがある」この部分がいい。作詞はM i y a b iとなっているが、竹内まりやさんご本人である。今年は、いや今年こそは、「いのちの歌」のように生きていきたいものである。